

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100153		
法人名	SOMPOケア 株式会社		
事業所名	SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田		
所在地	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田第1地割1番31		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとりひとりの利用者様のできることできないことを理解しながら共に行いながら生活している

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体のSOMPOケアグループは全国で介護事業を展開し、本県では盛岡、北上、釜石、大船渡の各市で訪問介護、訪問看護、通所介護、居宅介護支援の各施設を運営している。グループホームは当事業所のみだが、昨年6月に隣接する通所介護施設を廃止し、9月に2ユニットのグループホームに拡大した。種別の異なる事業所転換で勤務体制の見直しや施設設備のリニューアル等の苦労はあったが、1年を経過し、利用者も職員も落ち着いて日常生活を過ごしている。コロナ感染が急拡大した時期を除き、感染予防対策を講じながら、家族等の要望に沿って対面での面会を継続するなど、家族や馴染みの方との繋がりを大切にしながらコロナ禍を乗り切ってきた。終末期にも対応できる体制が整っており、本人や家族に信頼感と安心感を与えている。グループ全体で取り組む「子ども食堂」を当事業所でも11月から実施し、食事等を通じた利用者や地域の子どもたちとの交流が地域全体との繋がりに結びつくことが期待されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年3月2日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しい家」を目標に利用者様ひとりひとりのできないことを理解しともに行いその人らしい生活ができるように考えながら対応している。	運営母体であるSOMPOグループにおいて、経営理念やビジョンに基づく社員(職員)の「行動指針」が定められている。事業所としては、「楽しい家」づくりを目指し、利用者一人一人に沿った支援に努めているが、事業所の理念や基本方針を文章化したものはない。	「楽しい家」の実現に向けて、事業所としての理念を策定し、その理念を実践するための基本方針や目標を具体的に設定(見える化)し、職員が共有意識を持って日々のケアサービスに当たることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もありなかなか地域との交流が出来ていない。近所の方への挨拶声掛けを行っている。	町内会に加入しているが、行事等への参加は自粛している。近隣の方々には、雪かきを手伝ってもらったり、ホームの駐車場を開放するなどして交流ができています。SOMPOの全国グループホームで昨年11月から始めた「子ども食堂」を当ホームでも企画し、毎月、職員の子どもを中心に地域の子どもたちが食事やゲームを利用者と一緒に楽しみ、触れ合うことで認知症高齢者や介護の仕事を理解してもらい取り組みを行っている。コロナ収束後は、地域の小学校や子ども園との交流を再開したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	11月よりSOMPO流子ども食堂の開催を実施し地域との子供の交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のサービス状況等の報告と行政からの情報提供があり、職員間での情報共有を行っている。	コロナ禍の中でも、会議を開催してきたが、行政からの出席のみで、地域関係の委員は欠席が多い。家族もメンバーになってもらっているが、日程が合わないことなどから、出席はまだない。行事等の活動、転倒事故やヒヤリハットの報告をもとに意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告事項を訪問・電話にて報告している。	月1回は市の担当課、地域包括支援センターに顔を出して情報交換を行うようにしており、フェイスツーフェイスの関係を築いている。市の担当課職員は運営推進会議のメンバーとして毎回出席して事業所の状況等を十分理解し、利用希望者についての情報提供もあるなど、円滑な連携、協力が図られている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠している。身体拘束をしないを目標に利用者様の状況を共有し適切な援助ができるようしている	「身体拘束適正化委員会」は、管理者、計画作成担当者、スタッフ4人で構成され、3か月に1回開催しており、指針等の確認、利用者への対応、研修企画等の話し合いを行っている。3か月に1回、身体拘束の事例検討や言葉による拘束(ピーチロック)の防止策等をテーマに研修を実施している。外に出たい人には、ゆっくり会話をしながら落ち着くまで相手をするなどの支援を行っている。現在、離床センサーを使用している人はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、不適切なケアがないかの振り返りを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当の方はいないが、今後必要となる可能性がある方について職員間での情報共有はしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	質問や疑問があった場合にはその都度答え伝え、理解していただけるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等があった場合には、職員間で共有できるように記入し伝達している	利用者から運営に対する要望等は出ていない。家族との面会は、感染拡大の時期を除き、コロナ禍の中でも、事前に連絡をもらい居室の窓を開けるなどの予防対策を講じながら継続してきた。家族へのアンケートを年3、4回実施しているが、運営に関する意見や要望は特に出していない。家族に対する広報紙やお便りの発行は行っていない。	広報紙によりホームの情報を家族に向けて発信するとともに、利用者個々の生活の様子を「お便り」の形で毎月知らせるなど、ホームでの暮らしに対する家族の理解が深まるような取り組みを期待します。

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会での意見交換・個別での職員との面談で聞く機会を作っている。	毎月の職員による「定例会(職員会議)」では、行事計画等について活発な意見交換が行われており、トイレの整理棚の設置など設備の改善に関する提案もなされている。管理者は、「人事評価制度」での個人面談の機会を活かして運営に関する意見や要望も聴取している。グループ全体での研修体系も確立しており、職位や経験年数別の社内研修(リモート研修)に職員が参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所への訪問やzoomでの会議で意見を聞く機会を作り、状況の把握をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内にて職種ごとの研修を行い。社外の研修についても必要に応じて業務として参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での研修は以前は東北だけでの研修が主であったが現在は、すべての地域との研修となったため学びが多くなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の思い・要望を聴き、生活していく上での不安の解消ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からの要望を聴き、面会時・電話での状況の報告を行っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で必要としているサービスが違う時は、今の要望を確認し必要なサービス機関につなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様ができることはしていただく関係づくりに取り組んでいるが、年月とともに難しくなっている場面もみられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様での受診が可能な方には家族様対応での受診の継続をさせていただいている。面会も中止せず来ていただける時は来ていただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会も事前に連絡を頂き感染対策を行いながら実施できるようにしている。ドライブレクでも馴染みの地域に行ってみたりしている。	友人や近所の人との交流を続けている利用者はあるが、コロナ禍で電話での交流が主になっている。家族からの連絡を受け、知人や親戚が面会に来てくれた利用者もいる。ドライブレクの際、自宅周辺や思い出の場所巡りをする機会を設けている。2か月に1回、馴染みの美容師が来訪し、白髪染めなど髪のお手入れをしてくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しながら、トラブルになる状況を未然に防げるようにし、孤立することがないよう職員が間に入り対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要なサービスの提案を行ったり家族様との関係も保てるようにしている。		

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向を聞きながら、出来る範囲で意向に沿えるようにしている。	半数程度の利用者は、自分の思いや意向を言葉にできる。買って欲しいものをきちんと話す人、移動図書館で本を選ぶ人、毎日、新聞に目を通す人もいる。意思表示の難しい人は、表情や仕草で読み取るよう心がけ、職員間で共有し希望に添うよう努めている。馴染みの美容師が、一人一人の好みを理解し、個性的なカットをしてくれ、利用者から喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・家族様や関係機関の方からの聞き取りを行いながら把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活に合わせ、できることはしてもらい、利用者様の生活のペースに合わせられるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の生活状況を確認し、本人様・家族様からの意見を聞き、習慣やできることに配慮しながら計画を作成している。	計画作成担当者が、担当職員のモニタリングをもとに、毎月、カンファレンスを行い、ケアプランの実施状況を確認している。短期目標(3ヵ月)、長期目標(6ヵ月)の見直しに当たっては、計画作成担当者が、家族の希望を確認のうえ、必要に応じ医師、訪問看護師の意見も聞き、職員の確認を得たうえで、見直しプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を職員間で共有しながら日々の変化・注意事項について検討し、計画作成担当者に情報を伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して直ぐに応えられるよう、各サービス事業の方との連絡を密に取れる体制になっている。		

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様・家族様の意向を聞いた上で、これまでの生活に関わりがあった場所・人との交流ができるように検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者様が在宅診療を受診している。かかりつけ医に継続的に通われている方には家族様に状況を伝えながら対応している。	半数以上の利用者が協力医の訪問による在宅診療を受診している。内科以外の特定科の診療も協力医の紹介状により家族同行でスムーズに受診ができています。歯科については、定期的に在宅で検診や治療を受けている。週1回来所する同系列の訪問介護事業所(大船渡市)の看護師からは、便秘や排便コントロールなどの指導、助言を得るとともに、利用者の健康状況の確認チェックをお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との業務委託を行い月に4~5回看護師に訪問して頂き療養上のアドバイスを頂き必要な場合には、訪問診療の医師への報告をお願いしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には情報提供を行い状況の把握を行い、退院後の調整を行い。スムーズに再入所ができるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所の方針は契約時に説明している。利用者様・家族様の考えが契約時と変わっていることもあるので、変化がみられた時には意向の確認をしながら主治医との連携をしている。	協力医や訪問看護による医療連携の体制ができしており、利用開始時に、「重度化・看取り指針」により、医療ケアが必要になる場合を除き、希望により看取りまで対応することを説明している。看取りを希望する家族は多いが、現在は対象になる利用者はいない。昨年11月も含め、これまで3件の看取りを実施した。看取り経験のある職員が多く、新人スタッフには管理者がターミナルケアの実践研修を行い、利用者の状態変化を見分けられるよう指導している。	

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、研修や主治医からその際の初期対応について確認するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に避難が難しい時は事業所の二階への避難・避難できるときは近隣の福祉施設への避難と把握している。災害時には、職員が連絡を自ら事業所にできるようになっている。	ホームは土砂災害警戒区域に指定されており、また過去に氾濫した川も近く、火災のほか、土砂災害、氾濫避難訓練を年2回実施している。職員の非常召集訓練や避難先の特養ホームまでのルートを避難する訓練も行っている。近隣の方々とは、万一の場合、協力してもらえよう日常的に協力を要請している。小型の自家発電装置を用意し、3日分の水や食料の備蓄を行っている。	2ユニットになったことから、改めて防災マニュアルや避難時のフロー等の見直しが求められます。また、定期的な訓練のみならず、毎月、運動やリハビリを兼ねて利用者に避難経路を歩いてもらうなど、「ミニ避難訓練」を実施することで課題が見つかることもあり、継続的な取り組みが望まれます。夜間における避難のあり方についても検討が期待されます。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の生活歴を理解し、どの職員も同じ対応ができるようにしている。	やりたいことは制止しない、いやなことは押し付けられないことを基本に利用者に自己決定してもらうよう、一人一人の尊厳を大切に働きかけや支援を行っている。声かけの仕方、言葉遣い、語調等、利用者の誇りやプライドを傷つけないよう注意を払っている。また、これまでできていたことができなくなっている人もおり、無理強いせず、寄り添いながら見守る姿勢を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の要望を会話の中からくみ取り自己決定につながるよう、職員間での情報共有を行い対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に一日を過ごしていただけるよう、その日の利用者様の状況を共有しながら対応して。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの服を用意して頂いたり、利用者様自身から髪を切りたいとの意向があればお願いしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの把握も出来てきているので、違うものを提供している。食事の準備は出来ないが食後の片づけ等は一緒に無理なく行っている。	主菜や副菜は、本社の食材グループから前日午前中に3食分が配送され、職員が交代でご飯とみそ汁を用意している。行事の際は、メニューの豊富な仕出し弁当屋さんに外注することもある。ソフト食の人が1名いるが、全員が介助なく食事を摂っている。職員は見守りを行い、食事は一緒にしていない。半数の利用者が後片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量などは各利用者様によって違いはあるが、食べることができるよう食事の形態を変えるなどして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、入れ歯の不具合・口腔内の変化があった時には、歯科医に相談し訪問診療をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握しトイレ誘導を実施し、トイレでの排泄を促している。	昼は、殆どの利用者がリハビリパンツにパットを着用しており、おむつ使用は1人である。排泄パターンに合わせた誘導により全員がトイレで用を足しており、職員は見守りと着脱介助を行っている。夜間は、半数近くの人がおむつを利用し、睡眠優先としている。現状を維持できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の機会の確保や水分補給を確実に行えるように利用者様個々の嗜好も把握しながら便秘にならないように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は午後で定着している。利用者様から入浴したいという希望はなかなか聞かれないが、入浴時には職員との会話を楽しみながら入浴する様子がみられる。	入浴は週に2回、午後入浴を基本としている。異性介助を嫌がる人には同性介助で対応している。また、車椅子利用者には職員2名で介助支援を行っている。利用者は、職員と1対1の会話を楽しんでおり、一人一人の思いや希望を知るいい機会になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様ごとに就寝時間も違い・休息の取り方も違うので個々に合わせての対応を行っている。		

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を確認し、状況に変化がないかなど確認できている。服薬時に、誤薬がないかを確認しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のできることを把握し、無理のない範囲で職員も一緒に行い、気分転換の時間が作れるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての外出は難しいが、ドライブクを実践している。受診がある利用者様は家族様と外出する機会を得ている	コロナ禍で外出の機会は少なくなっているが、人込みを避けながらユニット毎にドライブに出掛け、夜のイルミネーションを観たり、海岸で散策を楽しんだりしている。天気のよい日は前庭の駐車場で日光浴を楽しむこともある。利用者は、コロナ禍の収束後、買い物や食事に出掛けることを楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設預かりか立替での対応となっている。欲しいものがある時は職員が対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様自ら手紙を書いたり電話することはないが、家族様から電話が来た際には話をされたりしている。友達からの電話もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	匂いなど不快感がないように配慮している。季節の飾りつけなどを利用者様と一緒に作ったりしている。	玄関から左右にユニットが分かれ、それぞれホールを囲むように各居室が配置されている。シックな集成材による木目調の床でホールや廊下、トイレも明るい。お雛様や五月人形、七夕飾り等、季節に合わせた飾りつけを行い、楽しんでもらっている。3、4人が座れる食卓、大型テレビを囲むソファ等が配置され、居心地よく寛げる共用空間になっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士での過ごす場所が固定されている。食後などはテーブル席での談笑がみられるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた馴染みのものなどをおくことで、居心地よく暮らせるよう事前に家族様と相談しながら配置している。	各居室にはエアコンと24時間換気システムが設置され、ベットと整理ダンスが備え付けになっている。本人、家族の希望で自由に部屋のレイアウトをしてもらっている。使い慣れた子ダンスや写真、装飾品類を持ち込んでいる人もいるが、総じてシンプルで清潔感のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレなど利用者様自身がわかり、自ら戻ったり利用できたりと、利用者様が施設に慣れ自立できている。		